

<p>外国語教育メディア学会</p> <p>LET</p> <p>九州・沖縄支部だより</p>	<p>第79号(2023年5月26日)</p> <p>LET九州・沖縄支部事務局発行</p> <p>〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1 熊本学園大学 研究棟302号 林幸代研究室 TEL: 096-366-3230(代表) E-mail: secretariat@j-LET-ko.org 編集: 林千晶・竹野茂・事務局</p>
--	--

May 2023 LET Kyushu-Okinawa Chapter No. 79

Table of Contents

・第50回(2023年度)外国語教育メディア学会九州・沖縄支部研究大会のご案内 (福岡大学 大津敦史)	1頁
・2022年度LET九州・沖縄支部ワークショップのご報告 (熊本県立小川工業高校 仲山 雄二)	3頁
・事務局からのお知らせ	5頁

第50回(2023年度)外国語教育メディア学会九州・沖縄支部研究大会のご案内

大津敦史 (福岡大学)



第50回支部研究大会は、2023年(令和5年)6月10日(土)に、福岡大学を会場に、対面で開催いたします。第49回(2022年度)支部研究大会(大会実行委

員長:麻生雄治先生)は、当初大分大学教育学部を会場に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染の収束の見通しがなかなかつかないため、急遽オンラインによる開催となりました。その前年度(2021年度)は、2020年に予定されていた当支部がホストとなる全国研究大会が、これまた新型コロナウイルスの蔓延により、1年遅れでの開催となりました。このような状況であったため、また全国研究大会のホスト年には支部研究大会は実施しておりませんので、2020

年度はいずれの研究大会も開催できない不運な年となってしまいました。よって対面での支部研究大会の開催は、第48回（2019年度）の熊本大学教育学部での開催（実行委員長：島谷浩先生）以来4年振りとなります。

今大会のテーマは、「Z世代のデジタルリテラシーを活かした外国語教育—ポストZ世代を視野に入れて—」です。ご承知の通り、現在の中学生から大学生位の世代の総称として用いられるZ世代は、デジタル・ネイティブとも言われるように、生まれた時からインターネットやデジタルデバイスに囲まれて育った世代です。ミレニアル世代あるいはそれ以前の世代と異なる価値観を持つことがマスメディアなどでもよく指摘されています。このZ世代の特性を理解した上で、いかにICT機器を活用するべきか、またICT機器の特徴を生かし、一人ひとりの特性に合わせた学習をいかに実現するのが教育現場で求められています。その一方で、教える側の世代が十分にデジタルデバイスを活用できているとは言えない現状があります。LET九州・沖縄支部研究大会が50回を迎える節目に、デジタルリテラシーを活用した教育の今とこれからについて、さまざまな観点から検討したいと思います。

午前中のワークショップでは、今井孝治先生（東福岡高等学校）を講師にお迎えし、「生徒のエンゲージメントを高めるICT利活用」というテーマで講習を行っていただきます。今井先生は、現在東福岡学園私立東福岡高等学校ならびに東福岡自彊館中学校で

英語科教諭としてご勤務なさる傍ら、同校のラーニング・ファシリテーターとして校内の授業改善に携わっておられます。2019年にはApple社よりADE(Apple Distinguished Educator)Class of 2019に選出されていらっしゃる。以降、学内外を問わず、ワークショップ講師を務めたり、教育講演・メディア取材、教育イベントの企画運営を行ったり、様々なステークホルダーと教育について考える場を提供していらっしゃいます。尚、今回のワークショップのキーワードである「エンゲージメント」または「学習者エンゲージメント」については、昨年末に刊行された大修館「英語教育」11月号の第3特集、「学習を促進する積極的関与「エンゲージメント」とは 動機づけを越えて」に、その簡潔な紹介がありますので、ぜひご覧ください。

午後前段の講演では、LET前会長の柳善和先生（名古屋学院大学）にご登壇いただき、「デジタル教材・教具の過去・現在・未来」というタイトルでお話をさせていただきます。柳先生は、先に触れました大修館『英語教育』において、30年の長きに渡り、デジタル教材・教具などを紹介する記事を書いてこられましたので、その回顧と、そこから見えてくる次の30年といった内容のお話しをしていただけるものと期待しています。既にご存知の方も多いと思いますが、『英語教育』本年4月号の「英語教師のためのICT活用ガイド」に、「【ウェブサービス】小学校英語支援サービス「キソサポ」と題する記事が掲載されています。

午後後段のシンポジウムでは、今大会

のテーマを受けて、コーディネーターとして麻生雄治先生（大分大学）、パネリストとして河村昌宏先生（小郡市立立石小学校）、宮西紀生先生（佐賀県立香楠中学校）、松村友美先生（長崎県立長崎北高等学校）の4名の先生方にご登壇いただきます。現行の小・中・高の学習指導要領でも情報活用能力の育成とICTを活用した学習活動の充実を図ることが求められています。デジタルデバイスに囲まれて育った子どもたちに、いかに効果的にICTを活用した授業を行うかは今後の大きな課題だと思います。このシンポジウムでは、小学校、中学校、高等学校のそれぞれのお立場でご活躍の先生方の実践報告をもとに、ICTを活用した新しい指導法を共有しながら今後の外国語教育の在り方について考え、議論を深めていきたいと思ひます。

最後に、去る3月27日に、博多駅まで全線開通した福岡市営地下鉄七隈線の利便性について少しだけ宣伝をさせていただきます。平成17年（2005年）2月に天神南～橋本間で開業した七隈線は、都市部の交通渋滞と空港線の混雑を緩和するため、延伸工事が進められてきました。この度その工事が完了し、福岡大学と博多駅が1本でつながり、約19分で移動できるようになりました。また、博多駅では改札口を出ることなく、動く歩道である「のりかえ通路」を利用すれば、空港線、七隈線、新幹線やJR各路線への乗り継ぎなども大変スムーズになりました。この便利な七隈線を利用して、一人でも多くの方々のご参加を実行委員一同心よりお待ち申しております。もちろん、情報交換会も開催されます！お楽しみに！

2022年度 LET 九州・沖縄支部ワークショップのご報告



桜のつぼみも膨らみ、春の足音がもうすぐそこに聞こえ始めた3月18日（土）、福岡大学におきまして LET 九州・沖縄支部2022年度ワークショップが開催されました。

仲山 雄二（熊本県立小川工業高校）

今回講師をつとめられたのは、福岡県立春日高等学校の坂口寛子先生で、「高校生の見方・考え方のholeを埋める—高校英語のライティングとディベート授業実践—」という題目で、前半はライティングに焦点を当て、後半にディベートを中心に据えたワークショップを行っていただきました。特にディベートに関心をお寄せの様々な校種の先生方が九州各地から参加され、坂口先生の問いかけに生徒役で参加しながら体験的に学ぶ形式で展開されました。

ライティングでの導入で、「何が足りないのか」という問いかけをなされながら、“data” “claim” “warrant”の構成を考えさせたり、「バレンタインチョコをいっぱいもらえた」のだから「僕はもてる」という主張に、どういった質問や反論ができるかというグループワークに、様々な参加者の先生方のユーモアあふれる自由闊達な意見が飛び交い、大変盛り上がりました。

また、「コミュニケーションスキルを身につけるために、高校生はアルバイトをすべきだ」という趣旨の英文を三角ロジックに分け、その中の“warrant”について考えさせたり、それらから導きだした“data” “warrant”について反論・反駁する英語を考えさせる活動を紹介されました。これは、英文としての相手側の主張の根拠を論理的に整理してとらえるだけにとどまらず、その主張の脆弱な部分に切り込む論理的な明快性を持った英文を書くという相手を意識した思考力を養うライティング活動を紹介されました。坂口先生によれば、生徒たちにここまで考えさせて英文を作らせるのはかなり難しいらしく、この域に達せられるのは高3の最後の最後位のレベルだと話されていました。

これらを踏まえたうえで、ディベートの概要について一通り説明なされました。坂口先生は、「聞く側のリスニング力」を最初に育むのにかなり時間がかかることをあ

げられ、生徒たちに相手側の意見をしっかりと聞き取らせる訓練や相手側が言った内容を詳しく確認する表現などを繰り返し練習させることが大切だと話されました。そのうえで、相手側に反論を行うために、先ほどの“warrant”を意識した質問の仕方や“data”の具体性を尋ねる質問などを行うことの大切さに触れられました。

ただ、毎回授業でこのようにフルスタブなディベートを行う時間はないので、ミニディベートを繰り返し行うことを推奨されました。そのための手法やルーブリック、ジャッジの仕方の育成法についても触れられました。ワークショップ終了後も、会場では質疑応答や講話に関する様々な先生方の意見交換などが引き続き行われ、盛会のうちに終了いたしました。

今回、坂口先生にライティングの指導法からディベートへのアプローチをワークショップを通じて教えていただきましたが、相手を意識した書き方や聞き方、尋ね方など、コミュニケーションをベースにした英語教育の大切さを改めて認識することができました。加えて、ワークショップの中で繰り返し言及されていたクリティカルシンキングについても、私たちが次代を担う生徒たちの将来に向けて、様々な学習のきっかけを創出したり、工夫を凝らしながら思考力をさらに深められるよう育んでいきたいと感じました。

事務局からのお知らせ

【新会員（2023年5月1日現在）】

<正会員・個人会員>

島田千秋（福津市立福間南小学校）

<正会員・学生会員>

江藤颯（西南学院大学大学院）

【支部紀要第23号発送】

支部紀要第23号を5月中旬に発送いたしました。もし、まだお手元に届いていない場合には事務局あてにご連絡ください。

【第50回 LET 九州・沖縄支部研究大会のお知らせ】

第50回 LET 九州・沖縄支部研究大会が、2023年6月10日（土）に福岡大学にて開催されます。大会プログラムが支部紀要に同封されておりますのでご確認ください。

ワークショップ等、事前申し込みが必要なものがございます。皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは支部 HP をご覧ください。

【会費納入のお願い】

2023年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛に送付されていると思います。

まだお振り込みいただいていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします（個人会員・団体会員は6,000円、学生会員は3,000円）。

未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。

支部の円滑な運営の為にもご協力お願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

【会員情報更新のお願い】

新年度になり、支部にご登録の情報（住所・ご所属等）に変更がございましたら、支部 HP より情報を更新いただくか、事務局あてにご連絡ください。

【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部>

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒862-8680

熊本市中央区大江2丁目5-1 研究棟 302号

熊本学園大学

林幸代研究室